

平成30年2月24日
歴史建築観光サポーター
育成講座発表資料（C班）

大庄公民館について



1 建物概要

項目	内容
名称	尼崎市立大庄公民館（旧大庄村役場）
所在地	尼崎市大庄西町3-6-14
構造・階数	鉄筋コンクリート・地上3階地下1階（塔屋除く）
建築面積	約477㎡
延べ面積	約1,561㎡
しゅん工年	1937年
建設費	約16万円（当時）
設計者	村野藤吾（村野建築事務所）
施工者	岡本工務店
文化財等指定	登録有形文化財（2003年）
用途	1937年～ 大庄村役場 1942年～ 尼崎市役所大庄出張所（支所） 1969年～ 大庄公民館

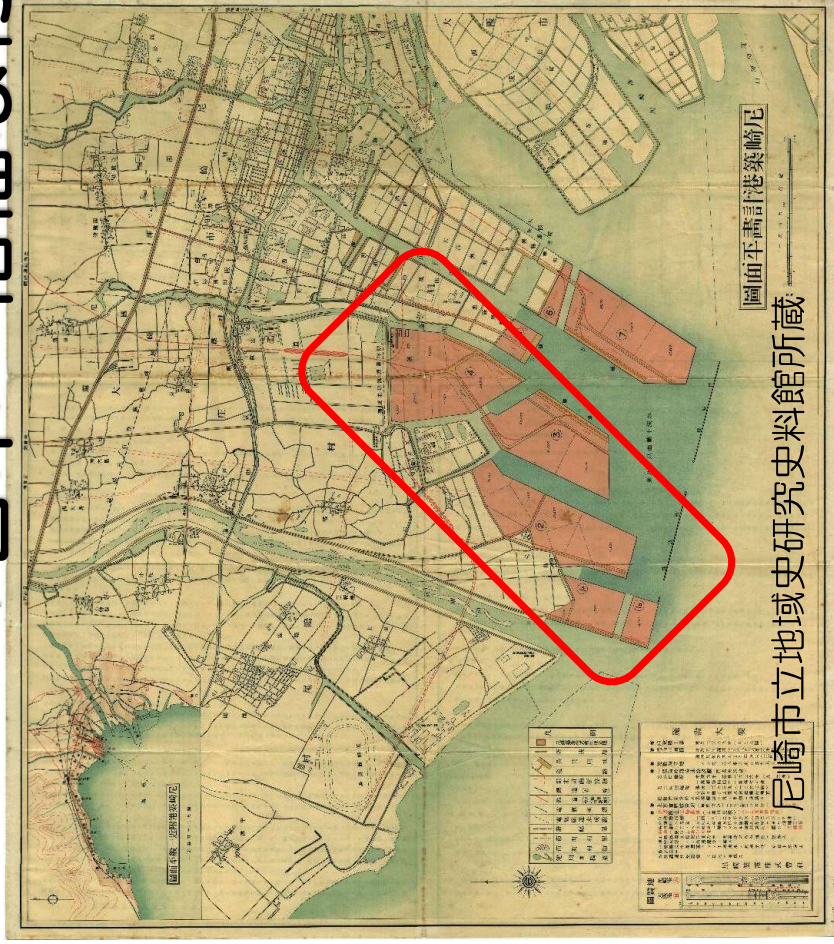


しゅん工当時は「これで村役場」と驚きをもって報じられたほど。
「日本一の村役場」とも

写真:しゅん工時の大庄村役場（『アサヒグラフ』第31巻24号一通巻788号）

2 建設の背景～旧の村役場が手狭に。その背景には・・・

(1) 「尼いも」の栽培が盛んな農・漁村が、1930年代に尼崎
築港(株)による大規模な埋め立てと大工場の進出で急速に都市化
→ 「日本一裕福な村」「日本一の大村」



- 人口
10,717人 (30年) → 43,971人 (40年) 4倍!
- 工場労働者数
965人 (30年) → 5,716人 (36年) 6倍!
- 歳入決算 (一般会計)
126,779円 (30年) → 1,144,976円 (40年) 9倍!

なお、竣工した37年度の歳出決算額は約32万円に對して歳入決算額は約69万円 (歳出の2倍以上! 余剰金37万円) 村役場の建設費は約16万円なので、余剰金で十分まかなえたことに (数値はいずれも『尼崎市史』より)

2 建設の背景～旧の村役場が手狭に。その背景には・・・

- (2) 村の建築技師が設計した2階建ての村役場建設設計画中の
1934年9月に室戸台風で村が大きな被害を受け、
建設延期

- **被害状況**

南部の新田を中心に浸水
又兵衛新田がほとんど壊滅
丸島も流出
死者99人
住家流失171戸
(apediaより)



いづれも尼崎市立地域研究所蔵

- (3) 当時新進気鋭だった**建築家・村野藤吾**に設計を依頼
(2階建て→塔状の階段室を持つ3階建て)
→ **都市化の勢いのあらわれ、復興の象徴(?)**

3 設計者・村野藤吾について

- 大阪を拠点とした日本を代表する建築家
(1891年～1984年)
- 有名どころやあの身近なものも…

※ 尼崎市庁舎以外の写真は『村野藤吾建築案内』（TOTO出版）より



wikipediaより



旧赤坂離宮（改修。国宝）



尼崎市庁舎



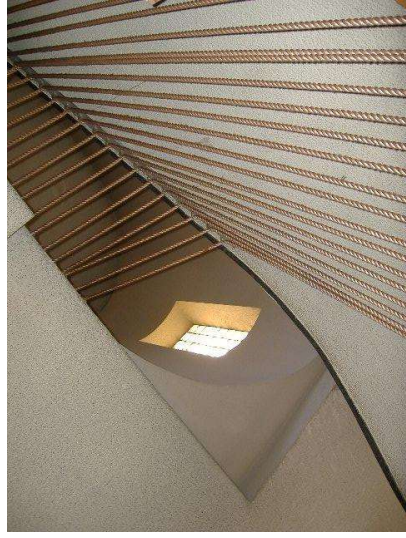
梅田吸気塔

4 大庄公民館の特徴・見所

(1) 同時代の庁舎建築と一線を画すような建物配置とサッシや
タイルにまでこだわった外観



(2) 曲線を描く階段手摺や凝った内装



4-(1) 外観について

- ① 当時の庁舎建築では、左右対称が好まれたが、非対称となっており、建物配置も回廊と中庭を設けている。



同時期の尼崎市庁舎（木造）
（尼崎市立地域研究史料館所蔵）

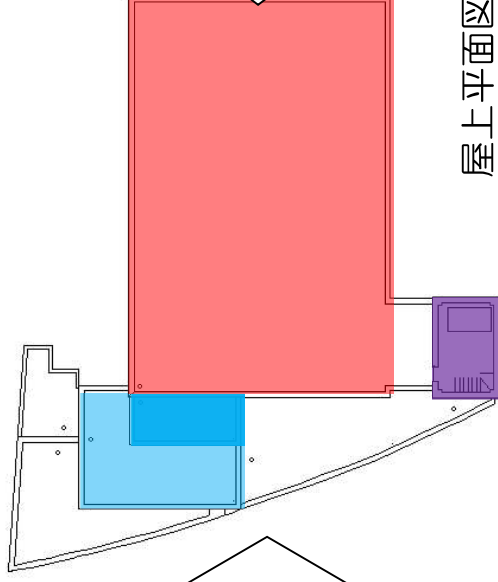
- ② 正面は2つの塊、裏は水路に沿って何段もの塊



裏からは
複数の塊



正面からは
2つの塊
（役場と階
段室部分）



屋上平面図

4-(1) 外観について

③ 塔屋のしりぞ、外壁の装飾



ノアの方舟の話でオリーブの葉をくわえた鳩を見て洪水の終わりを知ることによる。グリフィンは鷲の頭と翼、ライオンの胴体を持つ怪物。守り神

1934年の室戸台風からの復興の象徴(?)



④ サッシの枠 (抱き) が多彩



4-(1) 外観について

⑤ 塩焼きタイル

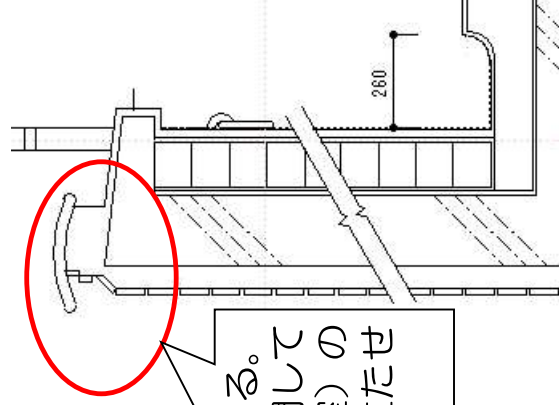


タイルの上薬・釉薬に食塩を使ったもの。表面にきめの粗いガラス状の膜ができる
建築用語.netより

⑥ パラペット



深い陰影が出る。水平線を強調して塔部（階段室）の垂直性を際立たせるため(?)



場所によって使い分け

パラペット収まり図

4-(2) 内部について

① 階段



1階踊場見上げ



1階踊場見下げ



1階踊場側壁



2階見上げ

「階段の魔術師」という異名を持つ村野の真骨頂ホースの水を振り回して曲線をイメージしたという逸話も



2階階段側壁

② 旧貴賓室



壁面全体がオークのベニヤ材で覆われている。象嵌細工による細かな幾何学模様の装飾あり



ヒーターのパネルにはブドウ(?)の装飾も床もオークのフローリング

おまけ～変わっていった箇所の痕跡～



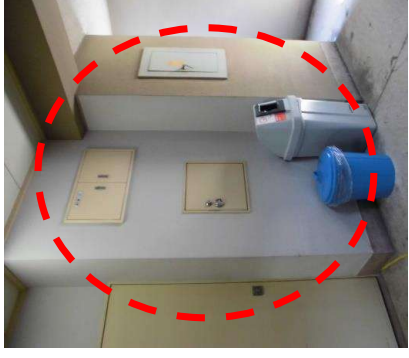
現在は1本柱だが・・・



堀と2本柱が残っている



植栽に隠れているが、かつての花壇が・・・



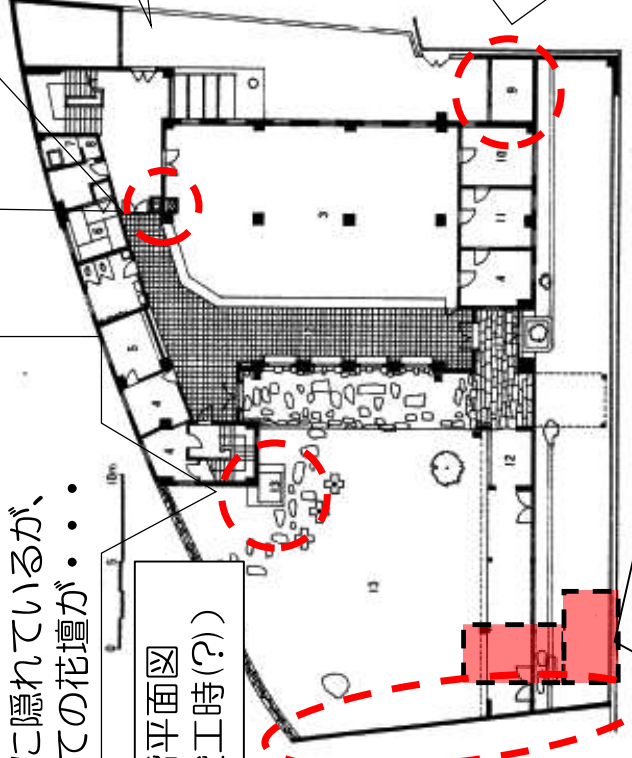
かつての煙突と手動リフト跡
縦貫通を利用して電気配線等をしている(?)



【参考】増築部



かつてのポンプ室跡
撤去後、タイル貼りして後年仮設物があった(?)



1階平面図
(竣工時?)

現在は交番があり、かつての回廊が分断されている

まとめ

- 著名な建築家・村野藤吾の初の庁舎建築として、後の設計にも見られる特徴（階段等）やこだわりがあらわれており、建築的な面白みがある。
- それにとどまらず、その規模や仕様、また装飾には、当時の大庄村の都市化の勢いや室戸台風からの復興という意味合いが感じられ、地域の歴史を今に伝えている。
- 築後80年が経過する中、用途を変えながらも外観上の大きな改変もなく、所有者者である行政と地域の人々に大切に使用されてきたことも伝えている。